

山口県のドングリ (17) 下関市の神社林のドングリ

阿武智之*・阿部弘和

山口大学教育学部生物学研究室

Fagaceae in Yamaguchi Prefecture (17)
Fagaceae in the compound of shrine in Shimonoseki-shi.

Tomoyuki ANNO and Hirokazu ABE

(Received September 29, 2006)

Summary

The species of Fagaceae in the compound of 55 shrines in Shimonoseki-shi were investigated.

Fifteen species belonging to four genera, 11 broad-leaf evergreen species and 4 broad-leaf deciduous species, were identified: *Quercus acuta* (in 3 shrines), *Q. glauca* (in 40 shrines), *Q. gilva* (in 1 shrines), *Q. phillyraeoides* (in 2 shrines), *Q. salicina* (in 4 shrines), *Q. myrsinaefolia* (in 2 shrines), *Q. sessilifolia* (in 1 shrines), *Lithocarpus glabra* (in 7 shrines), *L. edulis* (in 10 shrines), *Castanopsis cuspidate sieboldii* (in 3 shrines), *C. cuspidate* (in 37 shrines), *Q. variabilis* (in 2 shrines), *Q. acutissima* (in 4 shrines), *Q. serrata* (in 15 shrines), and *Castanea crenata* (in 9 shrines), respectively. The average number of species per a compound in Shimonoseki-shi was 2.5.

In this area, *Q. glauca*, *C. cuspidate*, and *Q. serrata* are dominant and common species; *Q. glauca* was observed in 72% of 55 shrines. *C. cuspidate* was in 67% of 55 shrines. *Q. serrata* was in 27% of 55 shrines. The appearance frequencies of these three species are as high as those of the other areas. But, the appearance frequency of *C. cuspidate* is two times of that of other areas. Moreover, the appearance frequency of *L. edulis* is higher than that of other areas and the appearance frequency of *Q. myrsinaefolia* is lower.

序 論

我々は山口県の自然植生を明らかにすることを目的に、各地の神社林においてドングリと呼ばれているコナラ属とマテバシイ属に加え、シイ属とクリ属も合わせたブナ科の樹木の種類や分布等を研究してきた。そして、これまでに山口市・小郡町（花岡・阿部、1986）、阿武郡・萩市（阿部・森田、1989）、防府市・徳地町・鹿野町（阿部・郡司、1991）、宇部市・楠町・美東町（阿部・白井、1994）、秋芳町・三隅町・長門市（阿部・白井、1995）、由宇町・岩国市・

*萩市立椿西小学校

和木町（西村・阿部、1996）、大島郡（阿部・岡原、1997）、熊毛郡・柳井市・大島町（阿部・岡原、1998）、下松市・熊毛町・光市（阿部・原田、1999）、徳山市・新南陽市（阿部・原田、2000）、小野田市・山陽町・美祢市（阿部・小路、2001）、油谷町・日置町（阿部・松富、2002）、豊北町・豊浦町（松富・阿部、2003）、豊田町・菊川町（松富・阿部、2004）、錦町・美川町・本郷村・美和町（阿武・阿部、2005）、周東町・玖珂町（阿武・阿部、2005）の合計1116の神社林で調査を行った。

これら山口県のほぼ全域を対象とした一連の研究の結果、ドングリの分布は地域によって特徴があることがわかってきた。すなわち、ドングリの中にはアラカシのように県下全域に渡って普遍的にみられる種や、ミズナラ、カシワのように高地でのみ稀にしか見られない種があった。また、山間部にはシラカシ、ウラジロガシ、ツクバネガシなどが多く、海岸部にはウバメガシ、マテバシイ、スダジイが多いことも明らかになった。さらに、スダジイは日本海側においては萩市以東で高い出現率を示し、瀬戸内海側でも上関町（出現率65%）など山口県の東部に多いが、それ以外の地域の海岸部では比較的少ないこともわかった。また、アベマキ、シリブカガシは東部でよくみられる種であることも明らかになった。このように神社林でみられるドングリの種類と出現率は山口県の中でも地域によって差があり、自然環境の指標となりえることが明らかになってきた。

この研究では、山口県西端に位置し、日本海と瀬戸内海が接する未調査地である下関市で調査を行った。調査では山口県東部海岸部に特異的に多いアベマキ、ウバメガシ、スダジイに注目しながら下関市内の55の神社林を調べた。

調査の方法

調査は国土地理院の2万5千分の1の地図をもとに、実際にあった市内の55の神社で実施した。これらの55の神社の位置は図1に、また、神社名と所在地は表3に示してある。神社では社殿などの建造物を囲む境内の林とそれに隣接する林をできるだけ広い範囲で調査し、生えているドングリの種類と位置を調べた。さらに、大きな個体については胸高直径と樹高を測定した。ドングリの分類は阿部（1985）、原・阿部（1985）、岩田（1965）、北村・村田（1979）、および、矢頭・岩田（1966）に従い、いくつかの神社では社寺林調査研究委員会（1985）と山口県植物研究会（2000）の資料を参考にした。調査は2005年3月から2005年11月に実施した。

結 果

神社と神社林の景観

下関市は山口県の最西端に位置し、関門海峡沿いに市街地を形成している。陸・海交通の要所であり、山口県第1位の人口を抱える都市である。古くから商業地として栄えた市であるためか、例えば稲荷社の数も他の地域に比べ多かった。海岸線は長く、日本海と瀬戸内海に面している。

市街地には平地が少なく、神社も傾斜地に建立されているのが目立った。例えば、大歳神社（下関市竹崎町、図2 A）や巖島神社・鈴森稲荷神社（下関市伊崎町、図2 B）は、市の中心部を見下ろせる丘の最頂部に建立されていた。二つの神社とも神社林は一部残されているが境内はよく整備されており、サクラやイチョウ、クスノキなどが植樹されていた。また、バイパス沿いの造成地にある松屋神社（下関市松屋上町、図2 C）は神社の周りは植樹され、人工的な神社林となっていた。その他、市街地にある中山神社（下関市綾羅木本町、図2 D）や彦島

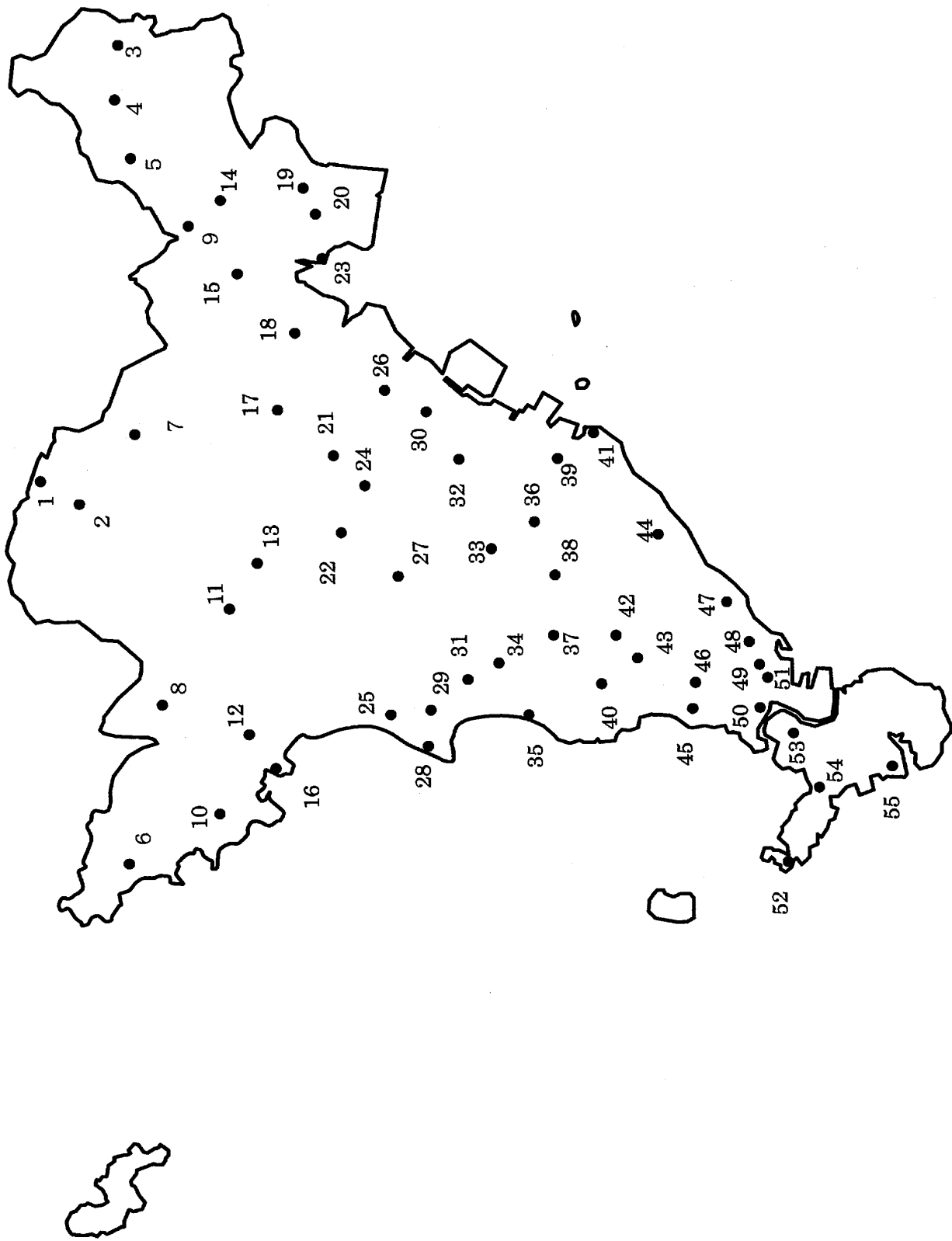


図1 神社の所在地 (番号は表3の神社の番号を示す)

八幡宮（下関市彦島迫町，図2 E）でもクロマツやマテバシイなどが植樹されていた。

市街地にはよく手入れされた神社が多かったが、人口が少ない山間部では林の中に神社が建立されている感じで、ほとんど人の手が加わっていない状態の神社、金比羅宮（下関市阿内，図2 F）や南壺之前社（下関市内日上，図2 G）のような小さな神社がよく見られた。訪れる人達も地域の人のみで、特にお年寄りの集会の場となっているようであった。その他、神社を囲む林が自然林と思われたものとしては、音無稲荷大神（下関市内日上，図2 H）や福浦金刀比羅本宮（下関市彦島福浦町，図2 I）が代表的な神社として挙げられる。

本州の西端で、大陸への中継地のため、朝鮮半島への出兵の際の戦勝祈願としての住吉神社（下関市一の宮住吉，図2 J）や安徳天皇が祀られ平家一門の墓地が隣接する文化財としての価値も高い赤間神宮（下関市阿弥陀寺町，図2 K）など観光地として有名な神社もあった。この2つの歴史的な神社には広い社叢があり、自然の植生が保たれていた。また、社殿の前に多数の巨木が見られ、神社らしい景観を保っていた。

瀬戸内海に面した豊功神社（下関市長府宮崎町，図2 L）など3社でスダジイ林が観察できた。豊功神社は、干珠島・満珠島（図2 M）が正面に見渡せる海に面した場所に建立されていた。忌宮神社が所有する満珠島は瀬戸内海西部の代表的な暖地原生林で、植物地理学上注目されている島である。ここには約200種の高等植物があり、ドングリとしてはスダジイが確認された。

内陸部にある龍王神社（下関市吉見下，図2 N）では、直径80cm程度のイチイガシの巨木が多数みられた。さらに、直径20cm程度の個体もあり、今もなおイチイガシ林として更新し続けている様子が見えかけた。イチイガシ林はこれまで錦町の広瀬八幡宮でしか確認されておらず、山口県では非常に珍しい神社林であるといえる。また、田畑の中の丘に鬱蒼とした神社林がある吉田八幡宮（下関市吉田，図2 O）や神社林を背に田畑との境に建立された春日社（下関市吉田，図2 P）では、神社周辺の道路整備により山の斜面が切り取られ、高さ20m以上の極相化したツブラジイ林を観察することができた。

ドングリの種類

55の神社であわせて4属15種のドングリを観察した。それぞれの神社にあった種類は表3に示してある。今までの調査では、どの地域にも7、8種のドングリが観察できる神社があったが、下関市ではそのような神社は無かった。最も種類が多かったのは、吉田八幡宮、春日社、音無稲荷大神、安岡八幡宮、勝谷神社、豊神社の5つの神社で、それぞれ5種類のドングリがあった。また、金比羅宮、南壺之前社、竜王神社、阿内八幡宮、垢田八幡宮、大坪八幡宮、彦島八幡宮、福浦金刀比羅本宮では4種のドングリを観察できた。55の神社を平均すると1神社あたりのドングリの種類数は2.5となった。ドングリが全くない神社が、6社あるものの、山口県全体の平均種類数2.2を上回っていた。

15種のドングリの中で常緑のドングリは、アカガシ (*Quercus acuta*)、アラカシ (*Q. glauca*)、イチイガシ (*Q. gilva*)、ウバメガシ (*Q. phillyraeoides*)、ウラジロガシ (*Q. salicina*)、シラカシ (*Q. myrsinaefolia*)、ツクバネガシ (*Q. sessilifolia*)、シリブカガシ (*Lithocarpus glabra*)、マテバシイ (*L. edulis*)、スダジイ (*Castanopsis cuspidata. sieboldii*)、ツブラジイ (*C. cuspidate*) の3属11種で、落葉性のドングリは、アベマキ (*Q. variabilis*)、クヌギ (*Q. acutissima*)、コナラ (*Q. serrata*)、クリ (*Castanea crenata*) の2属4種であった。種類数はこれまで調べた地域と比較すると最も多く、下関市は多様なドングリが分布する地であるこ

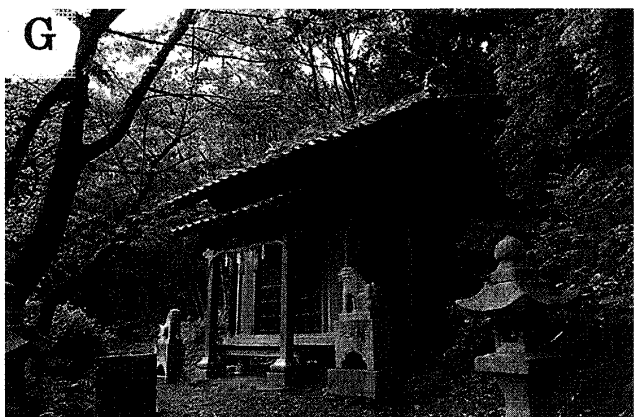
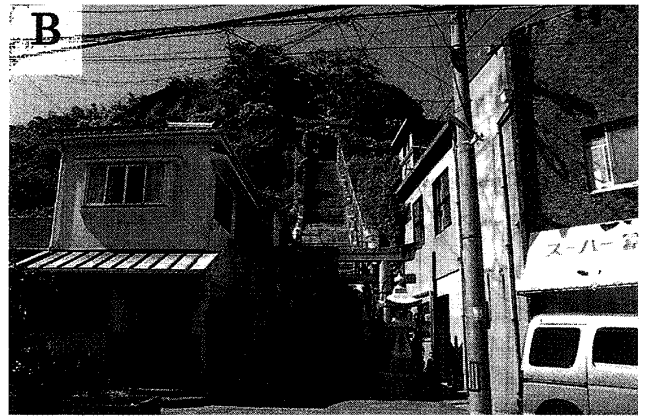


図2 神社と神社林(1)

A. 大歳神社

B. 巖島神社

C. 松尾神社

D. 中山神社

E. 彦島八幡宮

F. 金比羅宮

G. 南壺之前社

H. 音無稻荷大神

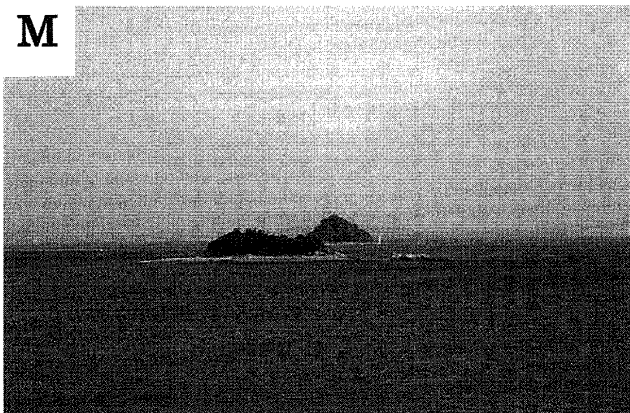


図2 神社と神社林(2)

I. 福浦金刀比羅本宮

J. 住吉神社

K. 赤間神宮

L. 豊巧神社

M. 干珠島・満珠島

N. 龍王神社

O. 吉田八幡宮

P. 春日社

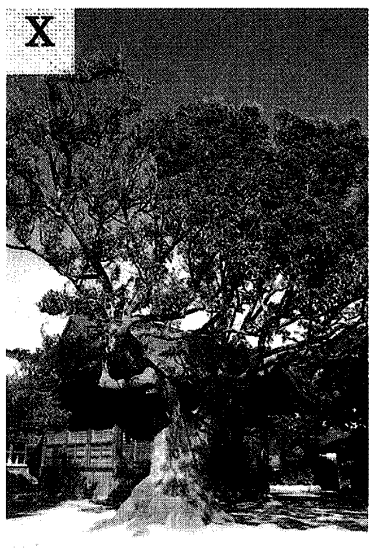
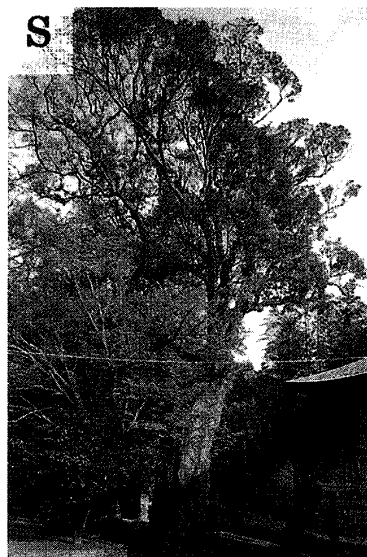
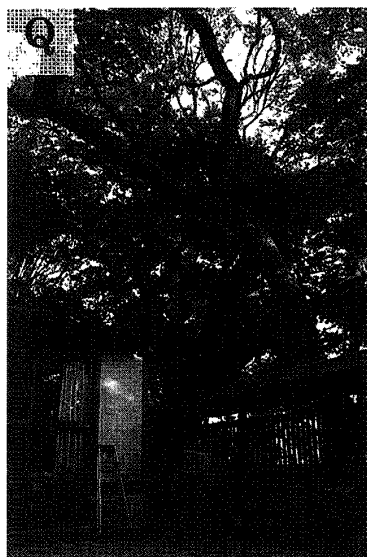


図2 神社と神社林 (3)

- Q. ツブラジイ (生野神社)
- T. イチョウ (内日神社)
- W. クスノキ (住吉神社)

- R. ツブラジイ (小月八幡宮)
- U. イチョウ (忌宮神社)
- X. クスノキ (横野八幡宮)

- S. イチイガシ (龍王神社)
- V. クスノキ (住吉神社)

とがわかった。

この地域でも他の地域と同様にアラカシの出現率が73%と一番高かった。アラカシに次いで多かったのはツブラジイで、出現率は67%であった。下関でも他の地域と同じくこの2種が圧倒的多いことがわかった。ドングリの巨樹は、ツブラジイに多く、生野神社（胸高直径120cm，図2 Q）や小月神社（胸高直径130cm，図2 R）などで胸高直径が1mを超える個体を5本確認することができた。また、龍王神社のイチイガシ（胸高直径108cm，図2 S）も100cm以上あった。さらに、若宮神社には樹木自体が朽ちやすく大きな個体が希な、大きなアベマキ（胸高直径80cm）があった。ドングリ以外の巨樹としては、イチョウ（内日神社：胸高直径140cm，図2 T）、クスノキ、タブノキなどを確認した。クスノキの巨樹は住吉神社（胸高直径175cm，図2 V、胸高直径194cm，図2 W）や横野八幡宮（胸高直径130cm，図2 X）など9本もあり、下関市の神社林の特徴となっていた。また、巨樹ではないが、武内宿祢が植えたとされているイチョウが（図2 U）忌宮神社で祀られていた。神社にあった大きな樹木は表1に示してある。

表1 神社にあった大きな樹木

樹木の種類	所在地と大きさ
イチイガシ	龍王神社（下関市吉見下，108cm・19m）
ツブラジイ	内日神社（下関市植田，100cm・19m）、龍王神社（下関市吉見下，105cm・17m）、小月神社（下関市小月宮の町，130cm・12m）、生野神社（下関市幡生宮の下町，120cm・13m、100cm）
イチョウ	内日神社（下関市植田，140cm・20m）、永田神社（下関市永田本町，105cm・23m）、小野八幡宮（下関市小野，100cm・25m）
クスノキ	若宮神社（下関市吉母，124cm・23m）、横野八幡宮（下関市横野町，130cm・10m、130cm・8m、115cm・9m）、住吉神社（下関市一の宮住吉，194cm、175cm）、忌宮神社（下関市長府宮の内町，136cm、122cm、113cm）
タブノキ	小野八幡宮（下関市小野，165cm・14m、108cm・19m）

（ ）の数字は胸高直径と樹高を示す

ドングリの種類と出現率

下関市では15種のドングリを確認できた（表1）。表1には比較のためこれまでの研究で得た下関以外の1116の神社のデータも示してある。これまでの調査で18種のドングリを確認しているが、下関市では標高500m以上の場所にあり冷涼な気候を好むミズナラとカシワ、そして、ナラガシワを除く15種が観察できた。これら3種は分布が特異的であるので、下関市は多様なドングリの種類が多く、それ故、ドングリを教材とした野外学習に適した場所であると言える。

また、山口県の他の地域のデータと比較すると、大きな違いがみられるのはツブラジイとシラカシ、マテバシイの3種類である。ツブラジイは他の地域の平均出現率が33%であるのに対して、下関では67%と2倍以上高くなっている。また、錦町、本郷村などの山口県の東部山地

では少ないが下関市を含む山口県の県南西部には多いことがわかった。一方シラカシは内陸に多く、マテバシイは海岸に多い傾向がある事が示されてきたが、下関市でもシラカシが少なくマテバシイが多く、これまでの結果とよく一致していた。

表2 ドングリの種類と出現率

ドンダリの種類	下関市 (55神社)	山口県 (1116神社)
アベマキ	2 (3.6)	58 (5.2)
ウバメガシ	2 (3.6)	26 (2.3)
カシワ	0	3 (0.3)
クヌギ	4 (7.3)	132 (11.8)
コナラ	15 (27.3)	334 (29.9)
ナラガシワ	0	8 (0.7)
ミズナラ	0	2 (0.2)
アカガシ	3 (5.5)	33 (3.0)
アラカシ	40 (72.7)	673 (60.3)
イチイガシ	1 (1.8)	26 (2.3)
ウラジロガシ	4 (7.3)	156 (14.0)
シラカシ	2 (3.6)	177 (15.9)
ツクバネガシ	1 (1.8)	78 (7.0)
シリブカガシ	7 (12.7)	43 (3.9)
マテバシイ	10 (18.2)	15 (1.3)
スダジイ	3 (5.5)	111 (9.9)
ツブラジイ	37 (67.3)	359 (32.2)
ク	9 (16.4)	295 (26.4)

() の数字は出現率 (%)

論 議

下関市にある神社を調べ合計15種のドンダリを観察することができた。1地域での種類数は他の地域と比べ多く、また、1神社あたりのドンダリの種類数は2.5と県全体の平均よりも高いことがわかった。

また、今回の調査で、アラカシ、ツブラジイ、コナラの出現率が他の地域と同様に高いこともわかった。特にアラカシについては、山野、海岸、住宅地などあらゆる場所で見られる代表的な種となっていた。その一方で出現率が10%以下の種が9種もあり、日本海・瀬戸内海と2つの海に面しているとともに、山地の地形を有しているなど、いろいろな種のドンダリが生育する環境がこの地域にあることを示していた。

そして、この下関市においても、ウバメガシ、マテバシイ、スダジイの分布域が海岸沿いに広がることが証明できた。ただし、内陸にある王子社でもマテバシイが観察できたが、明らかに植樹したものであった。2種のシイをみるとツブラジイが圧倒的に多かった。一般的に、ツブラジイは内陸に多く、スダジイはより標高が低い海岸に多いとされているが、このルールは山口県西部には当てはまらないようである。これまでの研究でシリブカガシとアベマキは山口

県東部に偏在し（由宇町・岩国市ではシリブカガシの出現率が19%、アベマキは26%）西方に向かうほど減少傾向を示し、山口市付近で出現率が0～数%となっていた。しかし、下関市ではシリブカガシが12.7%、アベマキが3.6%と再び高くなっていた。山口県中部にもこの両種が繁栄していたが今は消失した可能性があり、これは今後の検討課題である。

今回調査した下関市は山口県で最も人口が多い近代的な都市である。しかし、それでも昔の植生を保っていると思われる神社林があることは驚きであった。神社林には人の手が加わったものが多数有り、その全てが過去の残存植生を示しているわけではないが、この研究も含め調べた合計1171神社林のデータから本来の自然の植生を推測できるのではないかとと思われる。今後は、調査地点の標高、気温、降水量などの条件を参考にしながら、山口県全体の調査結果をまとめ、詳細に分析していくことが必要である。

表3 神社とドングリの種類

番号	神社名	所在地	ドングリの種類
1	王子社	植田	アラカシ, ツブラジイ, マテバシイ
2	内日神社	植田	アラカシ, シリブカガシ, ツブラジイ
3	河内社	吉田	アラカシ, シラカシ, ツブラジイ
4	秋葉社	吉田地方	アラカシ, クリ, ツブラジイ
5	吉田八幡宮	吉田	アベマキ, アラカシ, コナラ, シリブカガシ, ツブラジイ
6	若宮神社	吉母	アベマキ, ウラジロガシ, ツブラジイ
7	金比羅宮	阿内	アラカシ, クリ, ツブラジイ, シリブカガシ
8	吉見八幡宮	吉見上	アラカシ, ウラジロガシ, ツブラジイ
9	春日社	吉田	アラカシ, クリ, コナラ, シリブカガシ, ツブラジイ
10	永田神社	長田本町	アラカシ
11	南壺之前社	内日上	アカガシ, ウラジロガシ, コナラ, ツブラジイ
12	龍王神社	吉見下	アラカシ, イチイガシ, ツブラジイ, マテバシイ
13	音無稻荷大神	内日上	アカガシ, アラカシ, クリ, コナラ, ツブラジイ
14	宇津井八幡宮	木屋川本町	アラカシ, ツブラジイ
15	小月神社	小月宮内町	アラカシ, ツクバネガシ, ツブラジイ
16	石鎚大権現	吉見古宿町	クヌギ
17	阿内八幡宮	阿内	アラカシ, コナラ, シリブカガシ, ツブラジイ
18	清末八幡宮	清末中町	アラカシ, コナラ, ツブラジイ
19	*丸尾神社	松屋上町	アカガシ, アラカシ, クリ
20	松屋八幡宮	松屋上町	
21	員光八幡宮	員光	アラカシ, ツブラジイ
22	四王子山毘沙門天王	井田	アラカシ, クリ, ツブラジイ
23	白崎神社	白崎	
24	長門毘沙門天	員光	アラカシ, ツブラジイ
25	福江八幡宮	福江	アラカシ, ツブラジイ

下関市の神社林のドングリ

番号	神社名	所在地	ドングリの種類
26	宇部八幡宮	宇部	アラカシ, ツブラジイ
27	小野八幡宮	小野	アラカシ, ツブラジイ
28	横野八幡宮	横野町	
29	安岡八幡宮	安岡町	アラカシ, クヌギ, コナラ, ツブラジイ, マテバシイ
30	才川神社	才川	アラカシ, ウラジロガシ
31	富任八幡宮	富任町	アラカシ, コナラ, ツブラジイ
32	石鎚神社	松小田	アラカシ, コナラ, シリブカガシ
33	菅原神社	形山町	アラカシ, シリブカガシ, ツブラジイ
34	川北神社	綾羅木	クリ, コナラ, ツブラジイ
35	中山神社	綾羅木本町	
36	勝谷神社	前勝谷町	アラカシ, クヌギ, クリ, コナラ, ツブラジイ
37	豊神社	伊倉	アラカシ, クヌギ, クリ, コナラ, ツブラジイ
38	住吉神社	一宮住吉	アラカシ, ツブラジイ
39	忌宮神社	長府宮の内町	アラカシ, ツブラジイ, マテバシイ
40	垢田八幡宮	垢田町	アラカシ, コナラ, ツブラジイ, マテバシイ
41	豊功神社	長府宮崎町	スダジイ
42	* 大学町神社	大学町	ツブラジイ
43	生野神社	幡生宮の下町	ツブラジイ
44	貴船神社	前田	スダジイ
45	金毘羅宮	金比羅町	アラカシ, ツブラジイ
46	大坪八幡宮	羽山町	アラカシ, コナラ, ツブラジイ, マテバシイ
47	赤間神宮	阿弥陀寺町	アラカシ, スダジイ, マテバシイ
48	貴布禰神社	丸山町	アラカシ, マテバシイ
49	稲荷神社	丸山町	アラカシ, ツブラジイ
50	巖島神社・鈴森稲荷神社	伊崎町	
51	大歳神社	竹崎町	アラカシ
52	金比羅宮神社	彦島西山町	ウバメガシ
53	貴船神社	彦島老町	
54	彦島八幡宮	彦島迫町	アラカシ, ウバメガシ, シラカシ, マテバシイ
55	福浦金刀比羅本宮	彦島福浦町	アラカシ, コナラ, ツブラジイ, マテバシイ

* 神社名が不明で仮称

謝 辞

この研究にあたり資料集めに協力して下さった川野裕史氏に深く感謝致します。

引用文献

- 阿部弘和 (1985) : ドングリの分類と観察、遺伝39巻9号、66-71
- 阿部弘和・森田和則 (1989) : 山口県のドングリ (2) 阿武郡、萩市の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、39巻 (第2部)、13-27
- 阿部弘和・郡司浩史 (1991) : 山口県のドングリ (3) 防府市、徳地町、鹿野町の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、41巻 (第2部)、23-36
- 阿部弘和・臼井直希 (1994) : 山口県のドングリ (4) 宇部市、楠木町、美東町の神社林のドングリ
山口県教育学部研究論叢、44巻 (第2部)、1-12
- 阿部弘和・臼井直希 (1994) : 山口県のドングリ (5) 秋芳町、三隅町、長門市の神社林のドングリ
山口県教育学部研究論叢、45巻 (第2部)、19-30
- 阿部弘和・岡原恵子 (1997) : 山口県のドングリ (7) 大島郡の神社林のドングリ
山口県教育学部研究論叢、47巻 (第2部)、13-25
- 阿部弘和・岡原恵子 (1998) : 山口県のドングリ (8) 熊毛郡、柳井市、大島町の神社林のドングリ
山口県教育学部研究論叢、48巻 (第2部)、11-24
- 阿部弘和・原田憲幸 (1999) : 山口県のドングリ (9) 下松市、熊毛町、光市の神社林のドングリ
山口県教育学部研究論叢、49巻 (第2部)、1-11
- 阿部弘和・原田憲幸 (2000) : 山口県のドングリ (10) 徳山市、新南陽市の神社林のドングリ
山口県教育学部研究論叢、50巻 (第2部)、21-30
- 阿部弘和・小路 聡 (2001) : 山口県のドングリ (11) 小野田市、山陽町、美祢市の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、51巻 (第2部)、45-58
- 阿部弘和・松富憲之 (2002) : 山口県のドングリ (12) 油谷町、日置町の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、52巻 (第2部)、13-27
- 阿武智之・阿部弘和 (2005) : 山口県のドングリ (15) 錦町、美川町、本郷村、美和町の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、55巻 (第2部)、73-85
- 阿武智之・阿部弘和 (2005) : 山口県のドングリ (16) 周東町、玖珂町の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、55巻 (第2部)、87-95
- 岩田利治 (1965) : 図説樹木学—広葉常緑樹編—、朝倉書店 (東京)
- 岡国夫ほか (1972) : 山口県植物誌、山口県植物誌刊行会 (山口)
- 岡 国夫 (2000) : 山口県の巨樹資料 植物調査の歩み、山口県植物研究会 (山口)
- 吉良竜夫 (1976) : 自然保護の思想、人文書院 (東京)
- 北村四郎・村田 源 (1979) : 原色日本植物図鑑木本編、保育社 (東京)
- 社寺林調査研究委員会 (1985) : 山口県の社寺林、社寺林調査研究委員会 (山口)
- 花岡隆義・阿部弘和 (1986) : 山口県のドングリ (1) 山口市の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、36巻 (第2部)、27-36
- 原 靖治・阿部弘和 (1985) : 野外学習の進め方：ドングリの分類と観察
山口大学教育学部研究論叢、35巻 (第3部)、59-80

- 西村 淳・阿部弘和 (1996) : 山口県のドングリ (6) 由宇町、岩国市、和木町のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、46巻 (第2部)、19-28
- 松富憲之・阿部弘和 (2003) : 山口県のドングリ (13) 豊北町、豊浦町の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、53巻 (第2部)、1-13
- 松富憲之・阿部弘和 (2004) : 山口県のドングリ (14) 豊田町、菊川町の神社林のドングリ
山口大学教育学部研究論叢、54巻 (第2部)、81-90
- 矢頭献一・岩田利治 (1966) : 図説樹木学—落葉広葉樹編—、朝倉書店 (東京)
- 山口県植物研究会 (2000) : 山口県の巨樹資料—植物調査の歩み、里山自然史の会 (山口)
- 山口県野外植物研究委員会 (1993) : 山口県の社寺林、山口県野外植物研究委員会 (山口)